

■篠田雲鳳 漢詩人。幕末に、女性ながら評判の儒者となり、維新後も、衰えるところなかった。

しのだうんぼう

・ ・ ・ ・ ・ 1810＝

伊豆下田の弥治川で、代々廻船問屋をし名主や役人務めた由緒ある家柄の医者篠田化斎の娘に生まれる。母中村氏。父の弟は田中藩儒石井繩斎。

・ ・ ・ ・ ・ 1815＝ 5歳： 下田に清国船が漂着した際、代官江川坦庵が江戸から呼んだ朝川善庵を応接して、その聡明さに驚かれ、
伊能測量終・1816＝ 6歳： この頃、一家で江戸に出、

水野忠成老中1818＝ 8歳： 朝川善庵に入門し、経書を学び始め、その紹介で、中井薫堂にも師事して書を習い、
群書類従刊・1819＝ 9歳：
伊能図完成・1821＝11歳： 中井薫堂が死去。

ｼｰﾎﾞﾟﾙ来日・1823＝13歳： 早くも藤堂侯の娘に書を教え、
ｼｰﾎﾞﾟﾙ鳴滝塾1824＝14歳： この年、叔父石井繩斎が昌平黉に入る。
この間、詩作も学んで、大沼枕山や小野湖山とも交わり、
・ ・ ・ ・ ・ 1826＝16歳： 遠山雲如編の「簑内奇詠」に詩が集録され、
日本外史・ ・ 1827＝17歳： この年、繩斎が駿州田中に帰る。

ｼｰﾎﾞﾟﾙ事件・1828＝18歳： 容貌が抜きん出ていたこともあって注目され、
富籤流行・ ・ 1830＝20歳： さらに、*当時評判をとった「江戸現存名家一覧」に、儒者としてその名が出る。
富籤三十六景1831＝21歳： 菊地五山編「五山堂詩話」補遺第四巻に作品三篇掲載。この頃まで朝川善庵に学び、
この間、2度結婚するも、相手するには気位許さず、いずれも自分から直ぐに離縁、

滑稽+人情本 1835＝25歳： 往来物「岐唄乃花布美」の板下を書く。
・ ・ ・ ・ ・ 1836＝26歳： 「当時現在公益諸家人名録」に女子儒として掲載される。
大塩平八郎乱1837＝27歳： この頃には、江戸蔵前の札差工藤藤兵衛と3度目の結婚していて、後は長く続き、

娘を出産するも夭折、その後貰い受けた養女も夭折したため、子供は無く、
勅進帳初演・1840＝30歳： 叔父石井繩斎が死去。

阿部正弘首座1845＝35歳： 「玉池吟社詩」巻之四に作品五篇が載る。
ﾋﾞｯﾌﾟﾙ来航・1846＝36歳：

北斎没・ ・ ・ 1849＝39歳： 朝川善庵が死去。「現存雷名江戸文人寿命付」に儒家として挿絵付きで掲載される。

ペリー来航・1853＝43歳： *「当代全盛江戸高名細見」にとびきり流行として載る。

安政大地震・1855＝45歳： この頃、夫が病気で死去して以降は、独身を貫く。

五ヶ国条約・1858＝48歳： 「安己新撰文苑人名録」に儒者として載る。
安政の大獄・1859＝49歳： 梁川星巖が死去。
桜田門外変・1860＝50歳：

禁門の変・ ・ 1864＝54歳：

明治維新・ ・ 1868＝58歳：

学問のすすめ1872＝62歳： 芝愛宕に*開設された開拓使仮学校に併設の女学校に、自ら願い出て雇われ、和漢の学を講義。萩原乙彦編「
寿宴補助大家名標」に掲載。

明治6年政変 1873＝63歳： 仮学校周辺が火事となり駆けつける。
佐賀の乱・ ・ 1874＝64歳： 再び仮学校周辺が火事となり駆けつける。仮学校の札幌に移転が決まると、多病理由に退職し、
初の民間工場1875＝65歳： 芝愛宕に、私塾(知新塾)を設立し、教員も雇って教えて続けるも、文明開化の波と合わず、

大久保暗殺・1878＝68歳： この頃には塾も止めるが、
沖縄県編入・1879＝69歳： {静岡新聞}に西島美子追悼の詩を載せる。
・ ・ ・ ・ ・ 1880＝70歳： 「日本閨媛吟藻」下巻に作品六篇が載り、
明治14年政変1881＝71歳： 鑿鏤たる書を残し、「東京書画詩文人名一覧」、「明治文雅都鄙人名録」の詩書部、「東京式拾四高名」や、
新体詩抄・ ・ 1882＝72歳： 「皇朝書画人名宝鑑」の書の部に載るなど、
岩倉具視没・1883＝73歳： 最後まで名を保って、没した。

幕末維新論集12巻「明治維新の人物像」、